

北社会ニュースオウワ号

2011年11月15日

発行者： 鈴木壮夫

(1) 本日、第294回北社会

講師：日下 啓氏 (高14回)

テーマ： 「海外駐在力 成功を導くための実例」

日下さんと同期で北社会会員である星さんから本日の講師とテーマのご提案の電話をいただき、私はすぐ「海外駐在力」を地元・川越の紀国屋支店に注文しました。数日後、本屋から連絡あり受け取りに行き、すぐ読み始めました。日本航空在職中、17年にわたりフランス・カナダ・アメリカ・フィリピン・イギリスの5ヶ国に駐在した経験から書かれた“成功を導くための実例”一つ一つに私は同感させていただきました。

私の海外駐在は1986～88年の北京の一回だけです。でも、その二年半という短期間だけでも、多くのことを学びました。私が勤務していた商社の北京駐在員事務所は日本人が約15人、中国人スタッフが約30人でした。日本人駐在員の対中意識は三つに分かれていました。中国に迷惑をかけたという贖罪派、チャンコロと中国をバカにする保守派、新しい日中関係を築こうという新進派、それがあからさまに事務所内で行動していたのです。でも、それが当時の当たり前の中国での日本駐在員事務所のありようだったと思います。夜、北京市内の食堂で出くわす他社（商社でもメーカーでも）の駐在員との会話でも同じだったと記憶しております。駐在員のほとんどが単身赴任でした。私は毎日、日記を書くようにその日の出来事を便箋に書き留めて一週間分を纏めて川越に郵送しました。妻がきちんとファイルしてくれて、今でも書棚にあります。そんなことをしていたのは、事務所内で私一人でした。でも、今回「海外駐在力」を拝読させてもらい痛感したのは日下さんの奥様の素晴らしい援助です。一つ一つの事例を日下さんが記憶されておられたのでしょうか、奥様の力はどれだけ日下さんの著書発行を援助したのか本日お聞きしたいことです。一つ一つの事例での日下さんのアドバイスを、皆さんも参考にして、これから海外駐在に行く知人を援助してやって下さい。素晴らしいことだと思います。

(2) 仙台関連のこと

(イ) せんだいノート～三樹書房・発売 1400円 + 税～

『せんだいノート』は、仙台・宮城ミュージアムアライアンスの活動の一環として編集が進められ、せんだい地域の文化を支えるさまざまな話題や人々を幅広く取り上げています。東日本大震災のため発行されなかった本がふるさと再建という長い道のりの第一歩として刊行されたものです。どうぞ、ご一読を！

(ロ) 仙台市・今年度の固定資産税・都市計画税の減免決定の知らせが届く
私が保有する青葉区旭ヶ丘の税が82,400円より70,200円。被災地は大変ですね。